

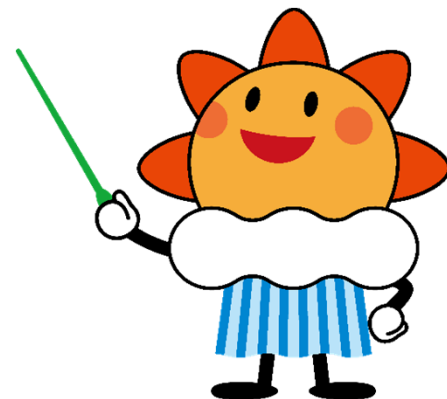
向こう3か月の 天候の見通し

3か月予報（9～11月）



ぼるけん

福岡管区気象台 気象防災部予報課
（令和8年8月25日14時発表）



はれるん

9～11月の予報のポイントと留意点

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、**暖かい空気に覆われやすい**ため、**高い**でしょう。
- 向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並ですが、低気圧の影響を受けやすく、**11月の降水量は平年並が多い**でしょう。

留意していただきたいこと

- **9月は気温が高く、残暑が厳しく、秋の訪れが遅い見込みです。熱中症の危険性が高い状態が続きます。**屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど**熱中症対策**を行い、**健康管理に注意**してください。また、**農作物や家畜の管理等にも注意**してください。



- 7月から**降水量が少ない状態が続いています**。今後2週間程度は少雨を解消するほどのまとまった雨が降る可能性は低い見込みです。**水の管理に注意**してください。
- **台風や秋雨の時期**であり、**近年は大雨の発生頻度が増加しています**。**最新の気象情報等を活用**いただき、**大雨・台風への備え**をお願いします。

9～11月の九州北部地方の平年の天候経過

9～11月
平年の天候

夏

8月

9月

10月

秋

11月

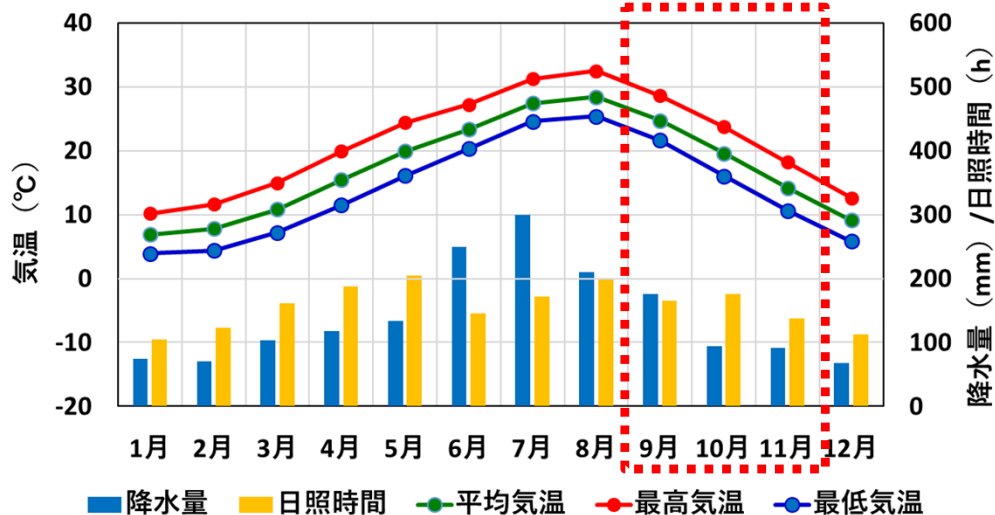
高気圧に覆われて
晴れの日が多い

低気圧と高気圧が交互に通る
天気は数日の周期で変化

晴れの日が多い

気温・降水量・日照時間の
月別の平年値

福岡



9～11月のポイント

- 9月以降は低気圧と高気圧が交互に通る周期変化型の天候
- 10、11月の降水量は少ない
- 秋雨や台風の影響を受けやすい

表 台風の発生及び上陸数 (平年値)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
日本上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0
九州北部地方 接近数				0.0	0.1	0.3	0.8	1.1	1.1	0.4			3.8

九州北部地方の天候の特徴

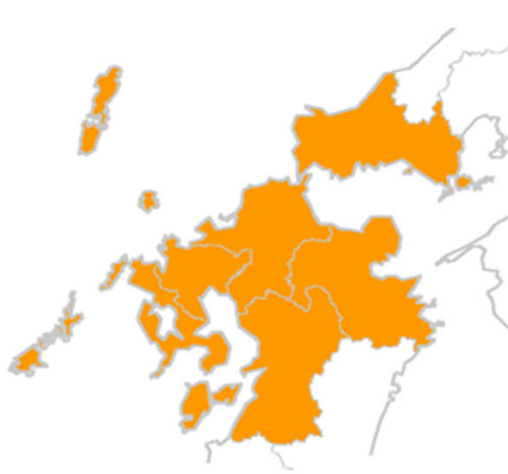
https://www.data.jma.go.jp/cpd/j_climate/kyuhoku/main.html

台風の統計資料

<https://www.data.jma.go.jp/yoho/typhoon/statistics/index.html>

天候の見通し（9～11月）

向こう3か月（9～11月）の平均気温・降水量

九州北部地方 (山口県を含む)	 平均気温（3か月） 9 ～ 11 月	 降水量（3か月） 9 ～ 11 月
	低10 並 40 高 50 高い 見込み	少 30 並 30 多 40 ほぼ平年並 の見込み
 数値は予想される 出現確率です	 高い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 低い確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上	 多い確率 70%以上 60% 50% 40% (20:40:40) 40% (30:30:40) 平年並 □ 平年並 少ない確率 40% (40:30:30) 40% (40:40:20) 50% 60% 70%以上

天候の見通し（月別）

	9 月	10 月	11 月
天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わりますが、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
気温 	低 20 並 30 高 50 高い 見込み	低 20 並 30 高 50 高い 見込み	低 20 並 30 高 50 高い 見込み
			
降水量 	少 40 並 30 多 30 ほぼ平年並 の見込み	少 30 並 40 多 30 ほぼ平年並 の見込み	少 20 並 40 多 40 平年並 か 多い 見込み
			

気温

高い確率

70%以上
 60%
 50%
 40% (20:40:40)
 40% (30:30:40)

 平年並

平年並

 低い確率

40% (40:30:30)
 40% (40:40:20)
 50%
 60%
 70%以上

降水量

多い確率

70%以上
 60%
 50%
 40% (20:40:40)
 40% (30:30:40)

 平年並

平年並

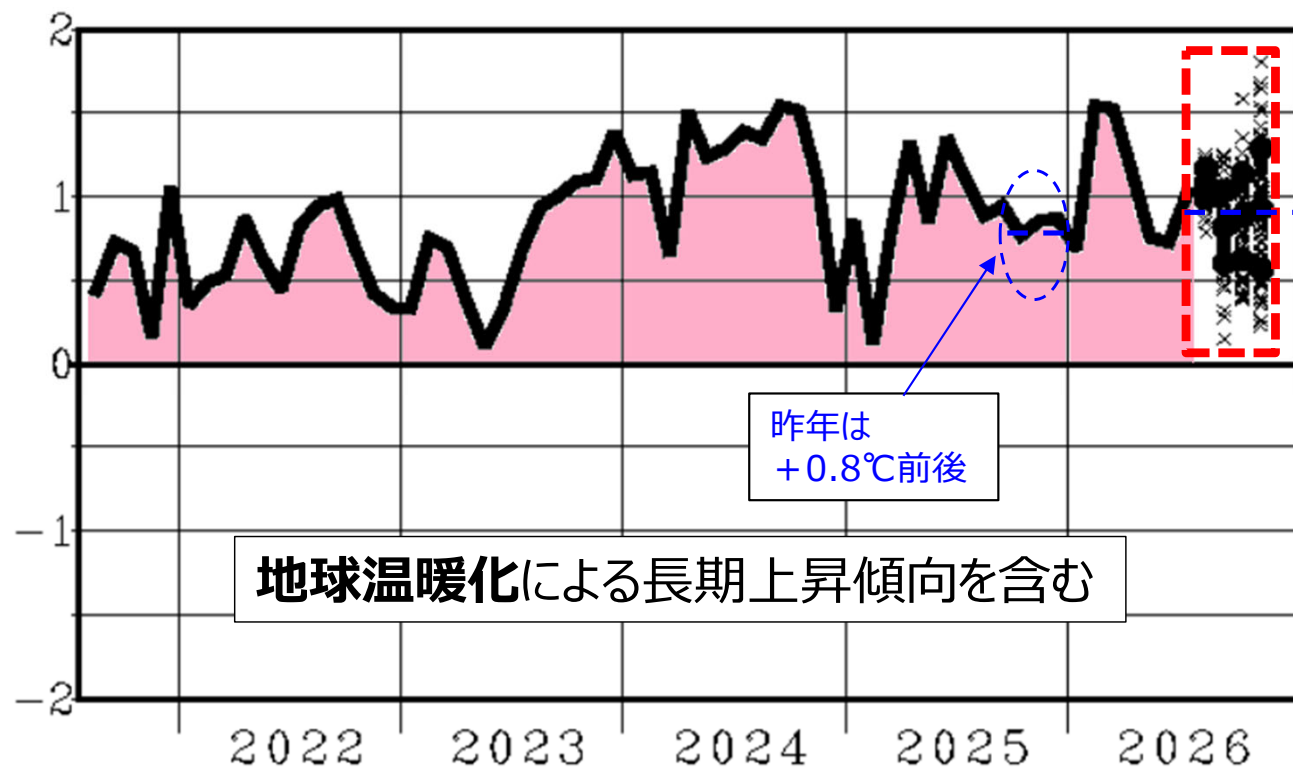
 少ない確率

40% (40:30:30)
 40% (40:40:20)
 50%
 60%
 70%以上

先月の3か月予報から9月と10月の気温を高温側へ変更：暖かい空気に覆われやすい傾向が強まったため。

大気全体の温度の予測

北半球中緯度の大気の温度は**高い**状態が続く。



+0.9℃程度

(北半球全体は+1.0℃程度)

9月は高温に注意。
エルニーニョ現象等により、
熱帯域を中心に大気全体の
温度が高く
暖かい空気に覆われやすい。

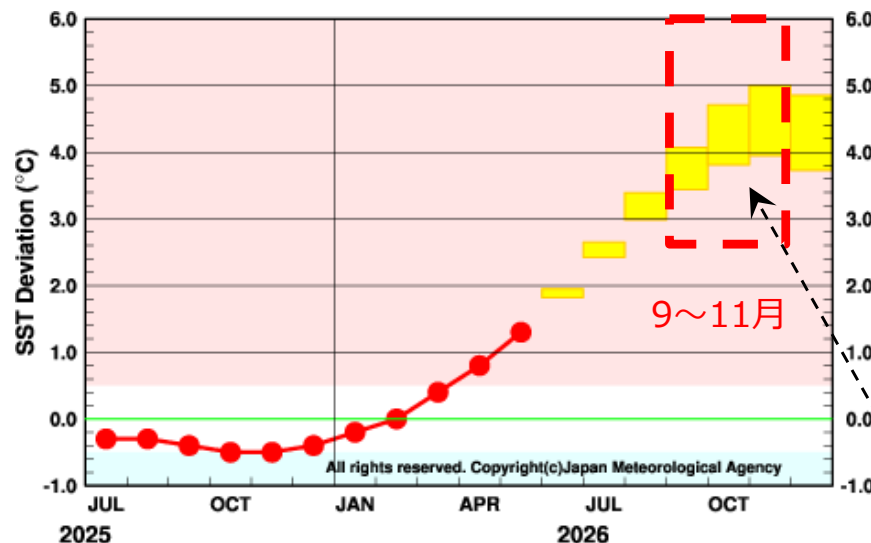


北半球中緯度の大気の温度の解析値と予測
対流圏（高さ約1,500～10,000m）の温度の平年差

熱帯域の海面水温の予測

2026年春から**エルニーニョ現象**が発生しているとみられる。
今後、冬にかけて**エルニーニョ現象**が続く見込み（100%）。

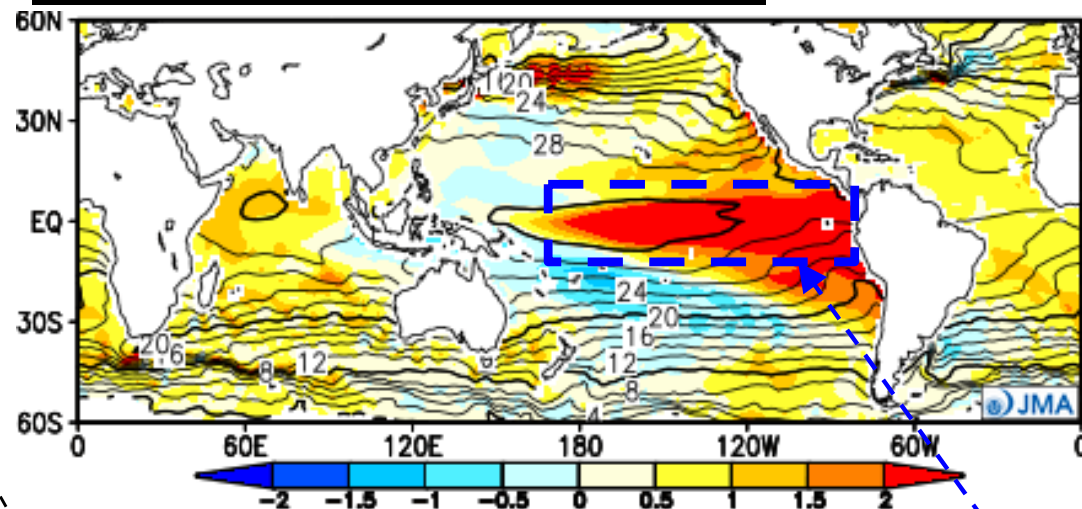
エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値の差



エルニーニョ監視速報 URL :

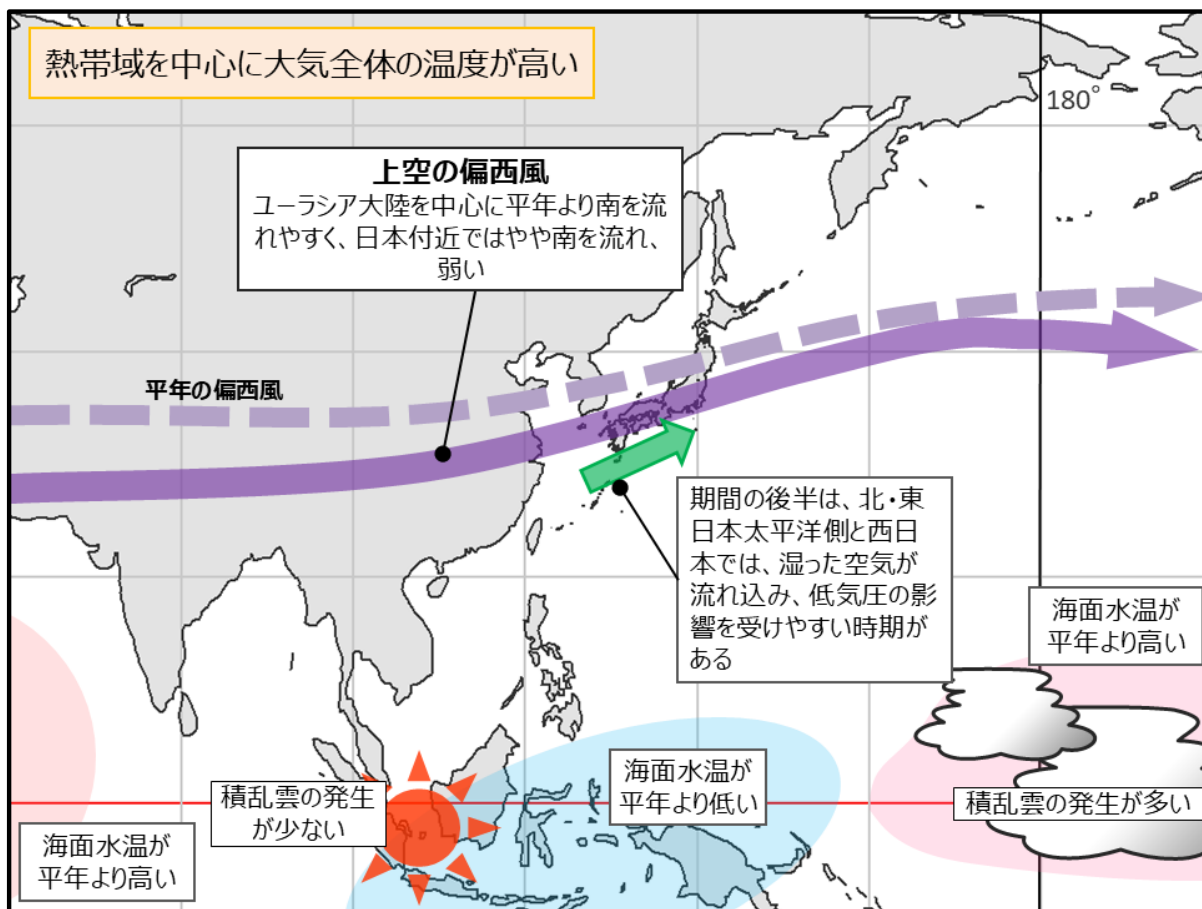
https://www.data.jma.go.jp/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

海面水温の予測図 (9~11月)



7月の基準値の差（月平均）は、+2.5℃
（7月としては1949年以降では1997年と並び最も大きい値）
今後は1997年（月平均で最大+3.6℃）に
匹敵する値になると予測。

予想される海洋と大気の特徴



【熱帯域の海面水温と対流活動】

- **エルニーニョ現象**が続く見込みで、海面水温は太平洋赤道域の東部～中部で高く、西部で低い。
- 積乱雲の発生は、太平洋赤道域の東部～中部で多く、インド洋東部からインドネシア付近にかけて少ない。

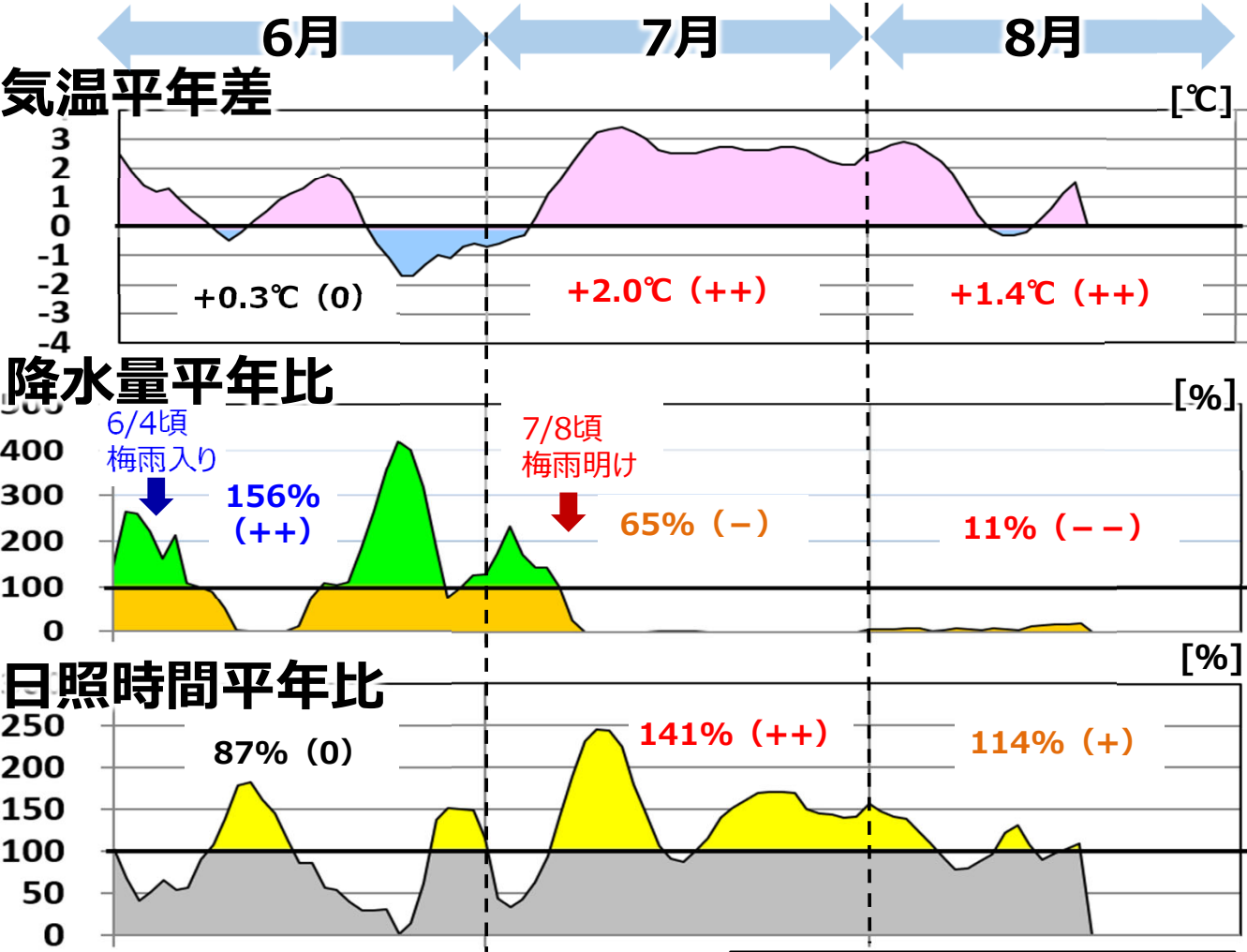
気温のポイント

- **9月～11月は高温予想。**
- 地球温暖化やエルニーニョ現象の影響で、熱帯域を中心に**大気全体の温度が高い。**
- 上空の偏西風はユーラシア大陸を中心に平年より南を流れやすく、日本付近ではやや南を流れ、弱い見込み。
- 日本付近は**暖かい空気に覆われやすい**見込み。

降水量のポイント

- **9月～10月はほぼ平年並**の予想
- **11月**は湿った空気が流れ込み、低気圧の影響を受けやすいため、**平年並が多い**見込み。

九州北部地方の天候経過（6～8月）



数値は月平年差（比）・階級区分値
 8月の値は20日までの暫定値
 グラフは5日移動平均値でプロット

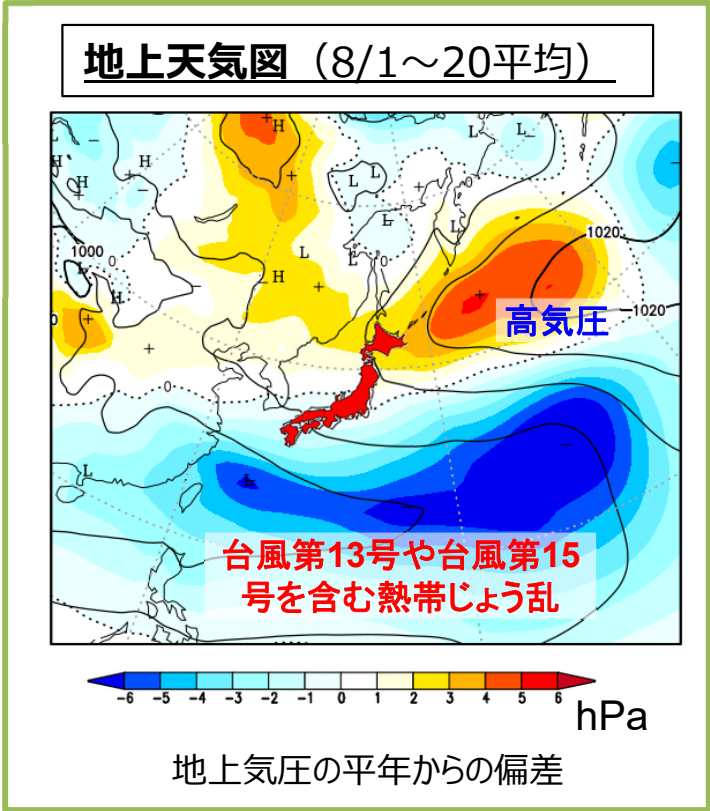
階級区分値	
(++)	: かなり高い/かなり多い
(+)	: 高い/多い
(0)	: 平年並
(-)	: 低い/少ない
(--)	: かなり低い/かなり少ない

[8月（20日まで）の天候]

➤ 上旬は暖かい空気に覆われやすく、酷暑日となった所もあり、気温はかなり高かった。

➤ 湿った空気の影響を受けにくかったため、顕著な少雨となった。

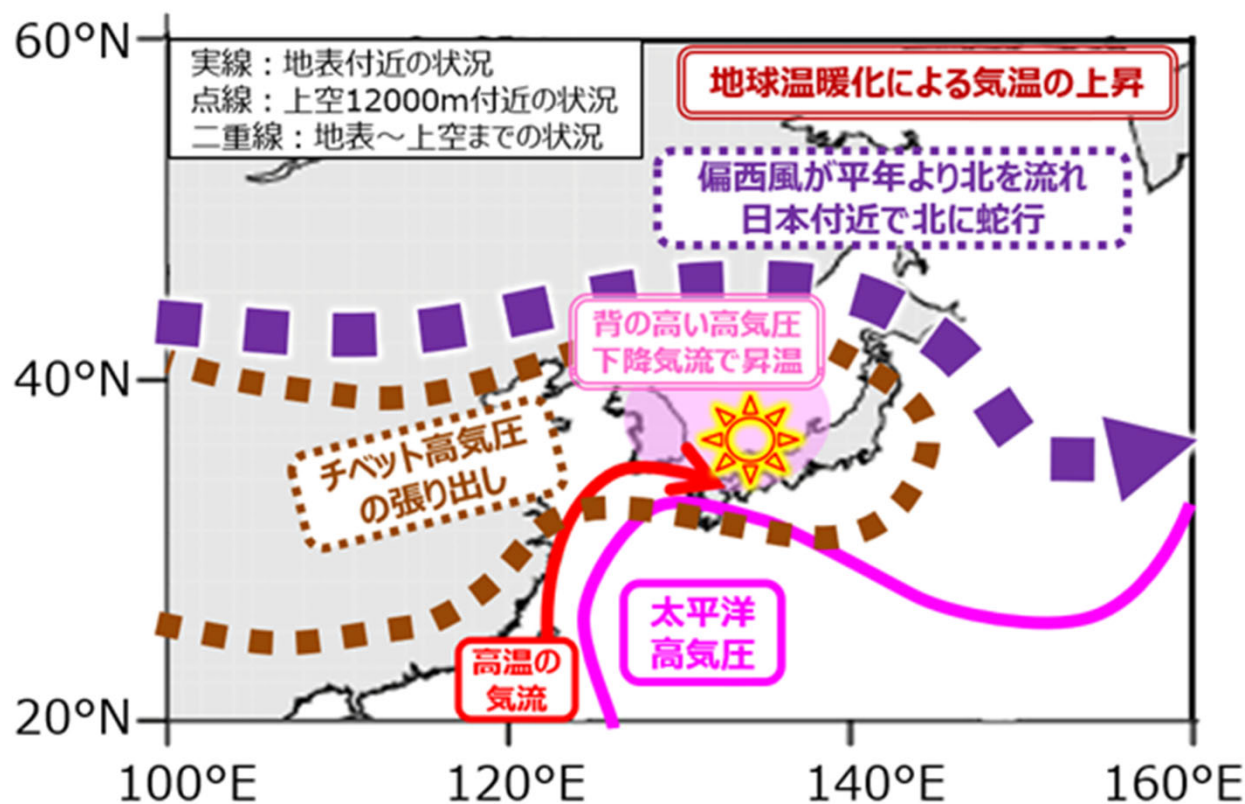
➤ 高気圧に覆われやすく、日照時間は多かった。



2026年7月中旬～下旬の顕著な高温

西日本を中心に7月中旬～下旬にかけて顕著な高温となり、九州北部地方の旬平均気温の平年差は、7月中旬が+2.9℃、7月下旬が+2.4℃、と統計開始以降最も高い記録となった。

7月27日に大分県日田市では九州で初めての40℃以上の酷暑日を記録した。九州北部地方では8月も高温が続き、8月3日は6地点で酷暑日を記録した。



2026年7月中旬～下旬の顕著な高温をもたらした大気の流れの模式図

7月27日

大分県日田市 40.0℃
※九州で初めての酷暑日

8月3日

福岡県久留米市	40.4℃
熊本県熊本市	40.3℃
福岡県太宰府市	40.2℃
熊本県菊池市	40.2℃
佐賀県佐賀市	40.2℃
佐賀県白石町	40.0℃

9～11月の予報のポイントと留意点

予報のポイント

- 向こう3か月の気温は、**暖かい空気に覆われやすい**ため、**高い**でしょう。
- 向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並ですが、低気圧の影響を受けやすく、**11月の降水量は平年並が多い**でしょう。

留意していただきたいこと

- **9月は気温が高く、残暑が厳しく、秋の訪れが遅い見込みです。熱中症の危険性が高い状態が続きます。**屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど**熱中症対策**を行い、**健康管理に注意**してください。また、**農作物や家畜の管理等にも注意**してください。
- 7月から**降水量が少ない状態が続いています。**今後2週間程度は少雨を解消するほどのまとまった雨が降る可能性は低い見込みです。**水の管理に注意**してください。
- **台風や秋雨の時期**であり、**近年は大雨の発生頻度が増加**しています。**最新の気象情報等を活用**いただき、**大雨・台風への備え**をお願いします。

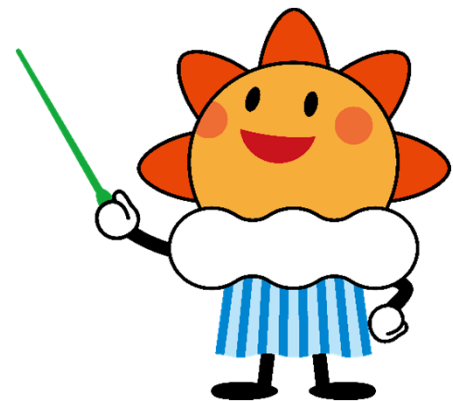
次回の3か月予報、寒候期予報（10月～2月）の発表は、**9月18日（金）**です。



参考資料



ぼるけん



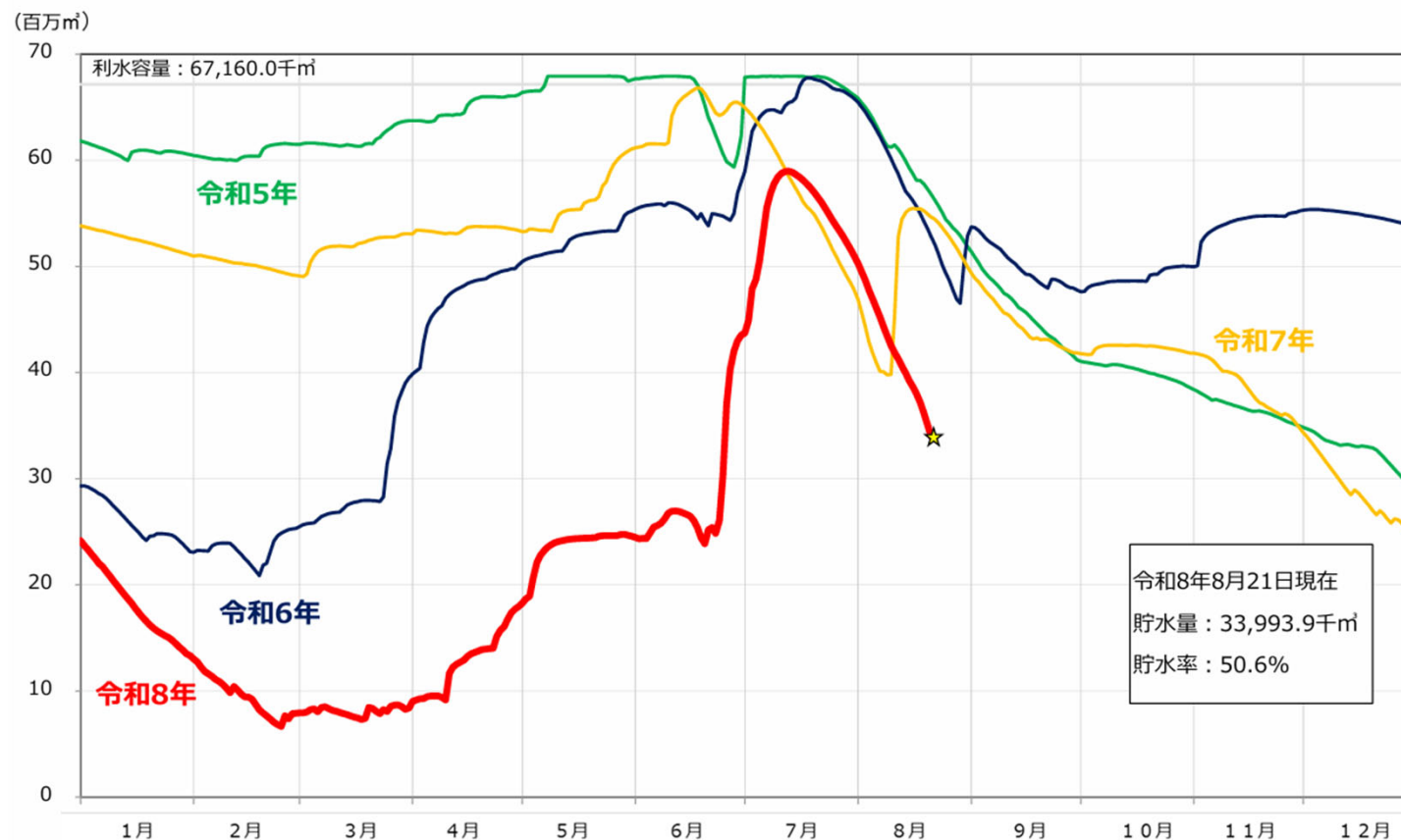
はれるん

ダムの貯水率時系列（筑後川水系）

8/21時点

- ✓ 7月の梅雨明け以降、降水量が少ない状態が続き、8月14日に「高温と少雨に関する九州北部地方（山口県を含む）気象情報」を発表し、注意を喚起。
- ✓ 筑後川水系等のダム貯水率は、梅雨期間の降水で上昇し渇水は解消したが、再びダム貯水率が下がり、渇水対策本部の設置や節水への呼びかけが行われている。

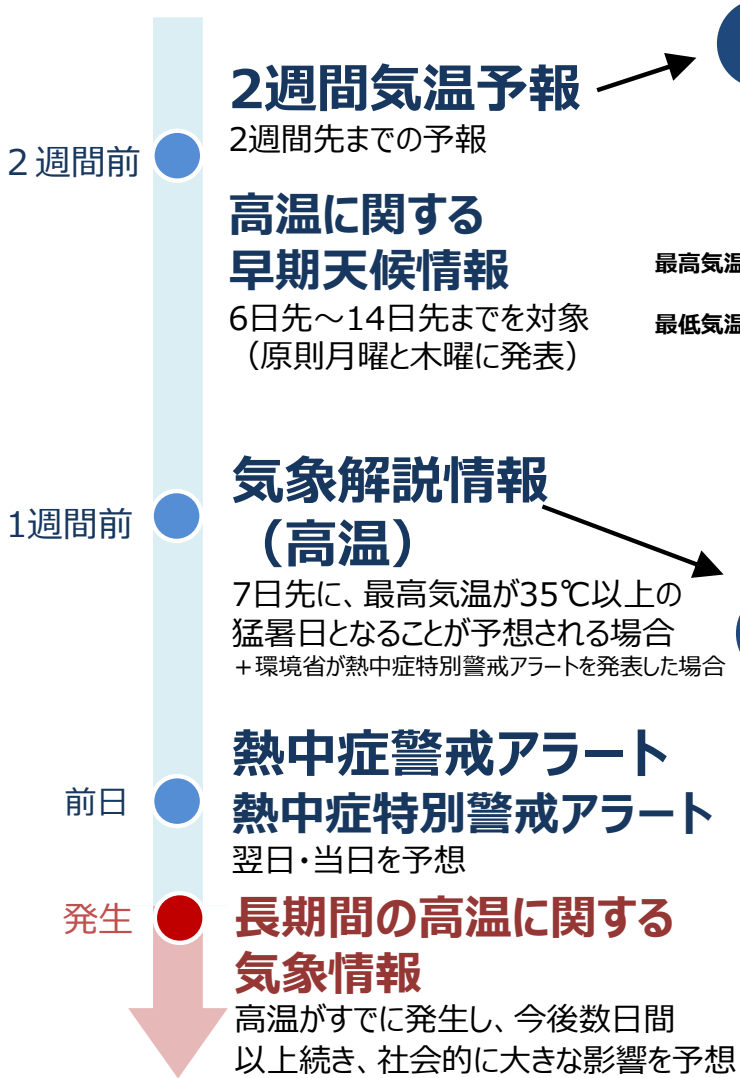
筑後川水系ダム総貯水量の推移(江川・寺内・小石原川ダム, 合所ダム, 筑後大堰, 大山ダム)



8/20
九州地方整備局渇
水対策本部設置

福岡地区水道企業団HP：<https://www.f-suiki.or.jp/waterquality-info/water-info/>

段階的に発表する防災気象情報（高温）



2週間気温予報の例

1週目の予報（日別）								2週目の予報（5日間平均）				
当 日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目 （6～10 日目）	9日目 （7～11 日目）	10日目 （8～12 日目）	11日目 （9～13 日目）	12日目 （10～ 14日）
最高気温	26	26	27	29	32	32	33	34	35	35	35	35
最低気温	23	23	23	24	25	25	25	26	26	26	26	26

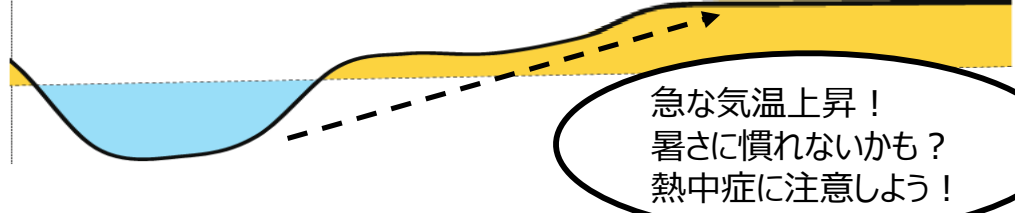
かなり高い

高い

平年並

低い

かなり低い



気象解説情報（高温）の例

九州北部地方（山口県を含む）気象解説情報（高温） 第1号
令和8年7月16日15時16分 福岡管区気象台発表
(見出し)
九州北部地方（山口県を含む）では、7月23日頃にかけて、最高気温が35度以上となるところがあるでしょう。
(本文)
[気象概況]
九州北部地方（山口県を含む）では、7月23日頃にかけて高気圧に覆われて晴れる日や暖かい空気に覆われる日があるため、**最高気温が35度以上**となるところがある見込みです。
[防災事項]
熱中症などの健康管理に注意してください。



農作物・家畜の高温
障害にも注意

段階的に発表する防災気象情報（大雨）

- 大雨の発生の**5日前**から、**早期注意情報**で、**警報級の大雨の可能性**を発表しています。
 - 早期注意情報や時系列情報等は、心構えを高め、事前の体制確保の検討に
- **キキクル**や**気象防災速報**は、**避難の判断**や**後押し**に活用してください。



早期注意情報（警報級の可能性）

時系列情報（明日までの警報等の見通し）

大雨・土砂災害・河川氾濫の警戒レベル
注意報・警報・危険警報・特別警報

早期注意情報（大雨）の例

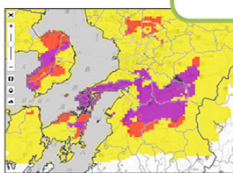
	当日	1日後				2日後		3日後	4日後	5日後
早期注意情報	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24			
大雨	-	-	-	-	-	-	-	[中]	[高]	[中]
土砂災害	-	-	-	-	-	-	-			

キキクル

気象防災速報



3～5日後は大雨の可能性。
今のうちに確認・準備しておこう。



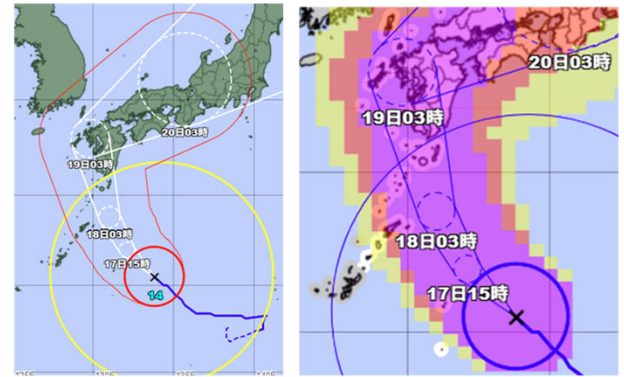
キキクルで
避難判断



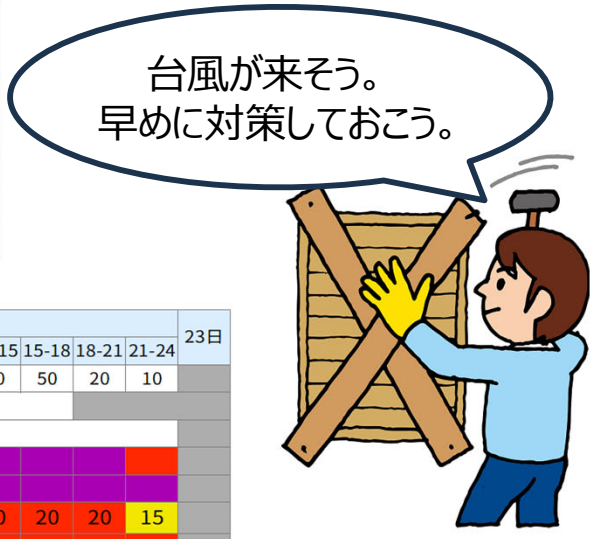
段階的に発表する防災気象情報（台風）



- 台風経路・強度予報
- 暴風域に入る確率
- 気象解説情報（台風第〇号）
- 早期注意情報



福岡県福岡地方	16日	17日				18日			19日	20日	21日
警報級の可能性	18-24	00-06	06-12	12-18	18-24	00-12	12-24				
大雨	-	-	-	-	[中]	[高]	[高]	[高]	[中]	[中]	-
土砂災害	-	-	-	-	[中]	[高]	[高]	[高]	[中]	-	-
暴風(雪)	-	-	-	-	[中]	[高]	[高]	[高]	[中]	-	-
波浪	-	-	-	-	[中]	[高]	[高]	[高]	[中]	-	-
高潮	-	-	-	-	-	[高]	[高]	[高]	-	-	-

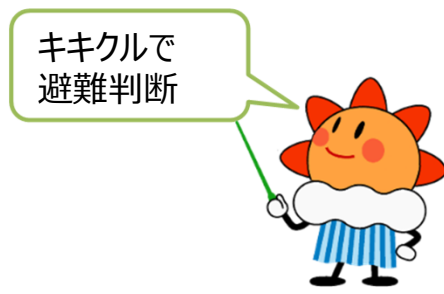


時系列情報（警報等の見通し）

〇〇市	21日		22日										23日
	18-21	21-24	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24			
1時間最大雨量 (mm)	15	15	30	50	80	80	50	50	20	10			
24時間最大雨量 (mm)			250										
大雨													
土砂災害													
暴風 (m/s)	陸上	12	12	15	15	20	30	30	20	20	15		
	海上	15	15	20	20	25	35	35	25	25	20		

- 警戒レベル相当情報
注意報・警報・危険警報・特別警報
- キキクル
- 気象防災速報

〇〇市	大雨
レベル5相当	
レベル4相当	レベル4 大雨危険警報
レベル3相当	
レベル2	

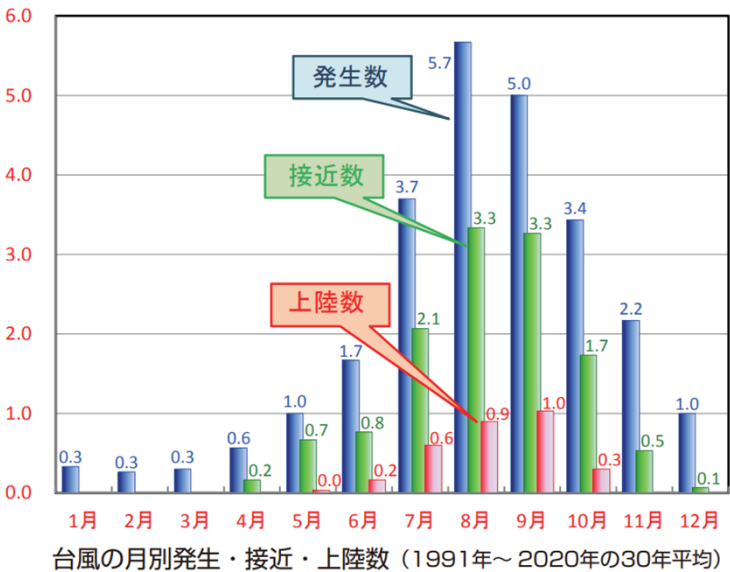


台風への備え① ～平年値～

台風の発生・接近・上陸数

台風は1年間に平均して25個程度発生し、12個程度日本に接近、3個程度が日本に上陸しています。発生・接近・上陸ともに、7月から10月にかけて最も多くなります。

九州へは1年間に平均して4個程度接近し、夏（6～8月）は、1年間に平均して2個程度接近しています。

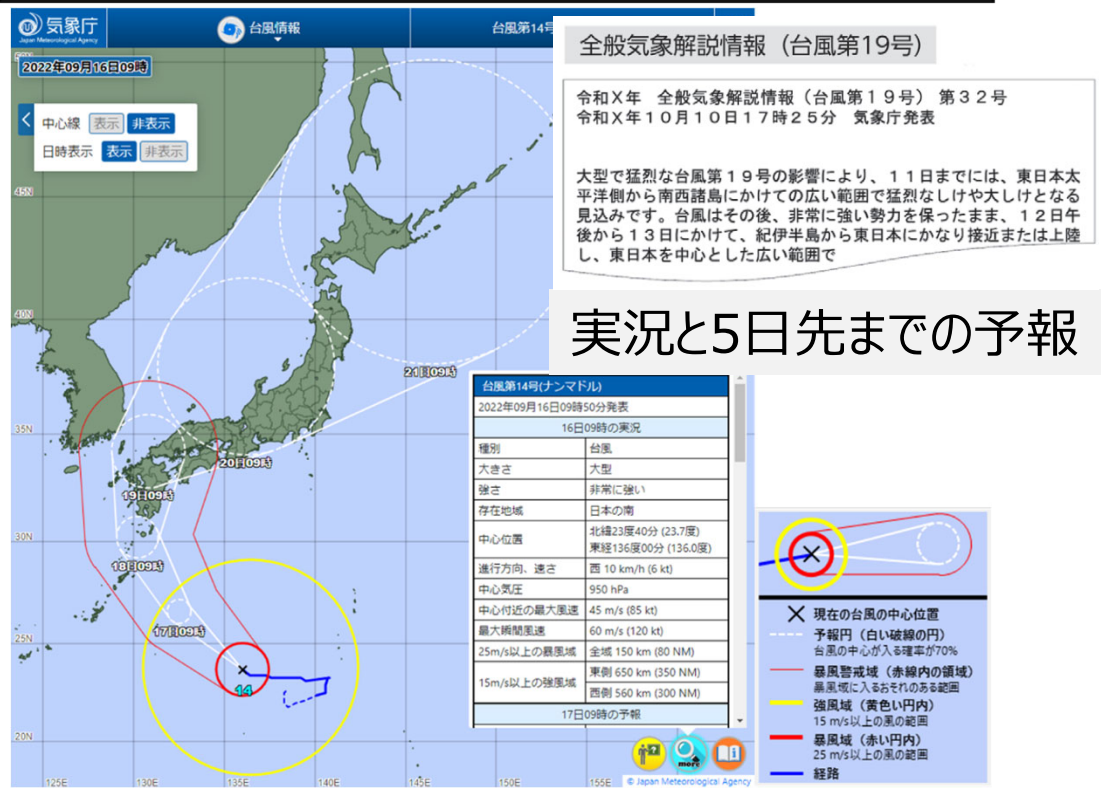


地方ごとの台風接近数の平年値

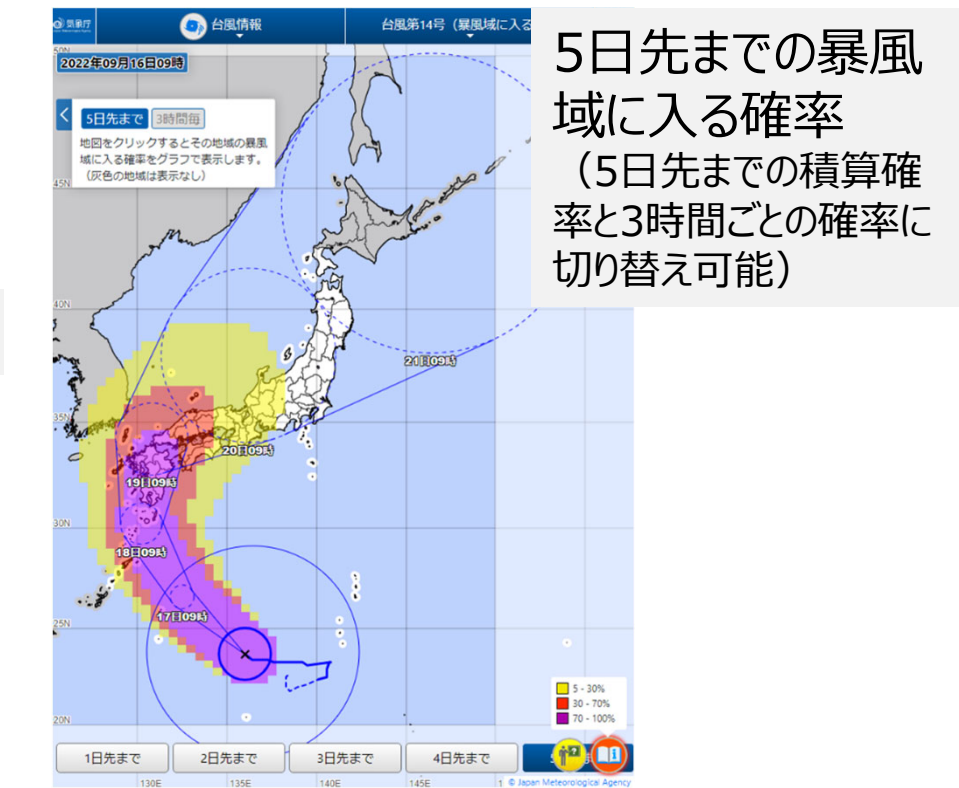
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
九州南部・ 奄美地方	奄美地方				0.0	0.2	0.4	0.7	1.1	1.3	0.7			4.3
	九州南部				0.0	0.1	0.4	0.7	1.0	1.2	0.5			3.9
九州北部地方					0.0	0.1	0.3	0.8	1.1	1.1	0.4			3.8

台風への備え② ～台風情報～

台風経路図、全般気象解説情報（台風）

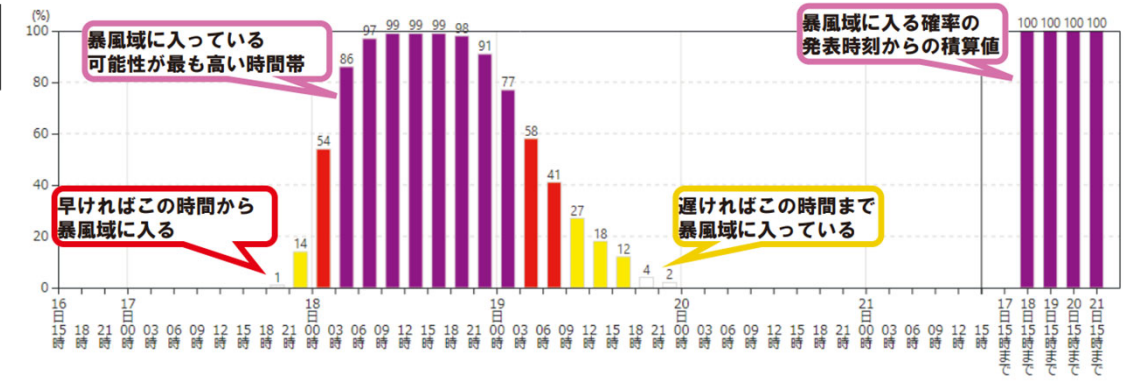


暴風域に入る確率（面的分布）



暴風域に入る確率（時系列）

地域ごとに5日先までの暴風域に入る確率を時系列で表示したもの



最近の9～11月の天候

過去10年間の九州北部地方の地域平均の平均気温（平年差℃）と階級

年	9～11月	9月	10月	11月
2025	2.1	3.0	2.9	0.5
2024	2.7	3.7	2.6	1.8
2023	0.8	2.1	-0.2	0.5
2022	1.0	1.0	-0.1	2.0
2021	0.6	0.9	1.1	-0.4
2020	0.1	-0.3	-0.2	0.9
2019	1.0	1.3	1.2	0.5
2018	-0.3	0.0	-0.8	0.0
2017	-0.4	-0.7	0.4	-0.8
2016	1.0	0.7	2.0	0.3

かなり高い

高い

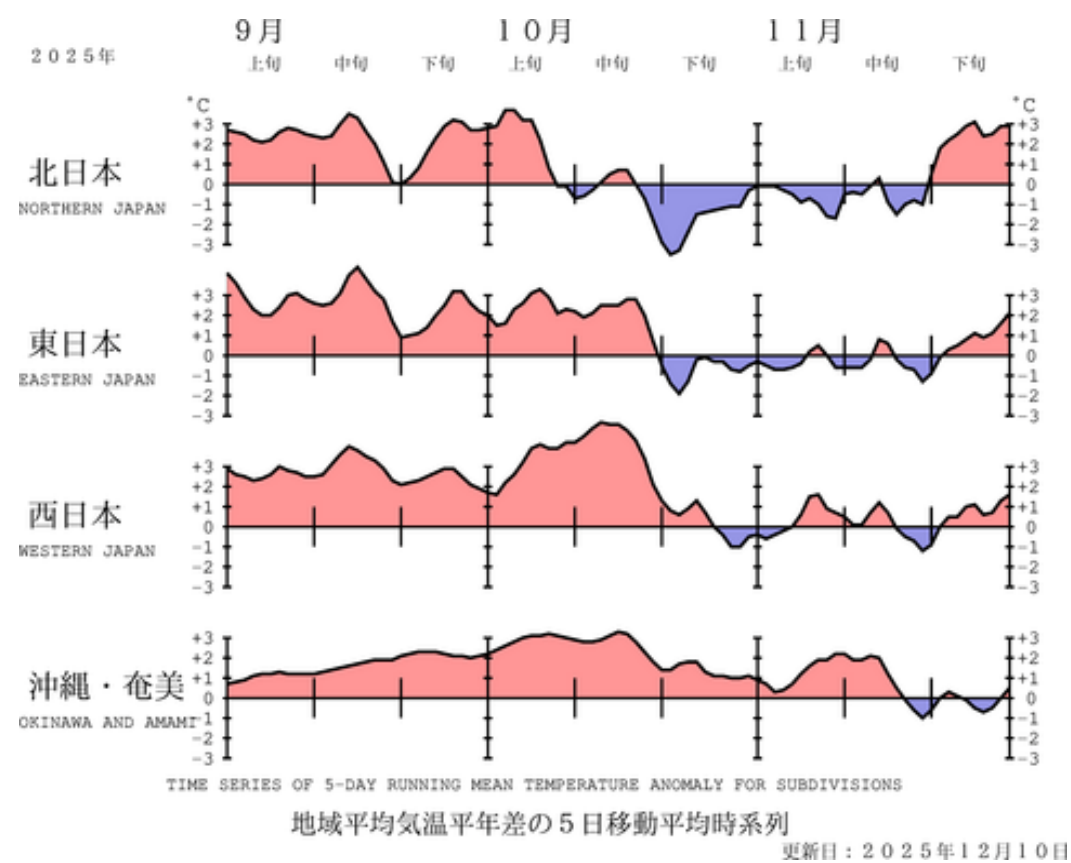
平年並

低い

かなり低い

年の色は、**赤**：秋にエルニーニョ現象が発生している
青：秋にラニーニャ現象が発生している

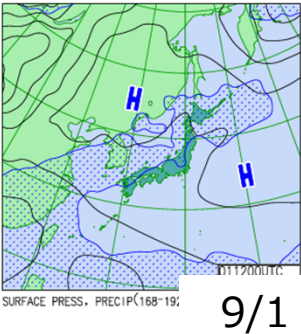
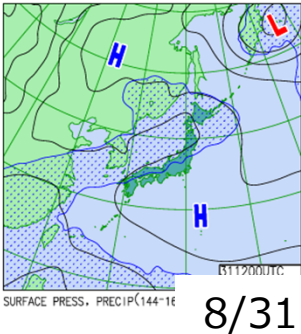
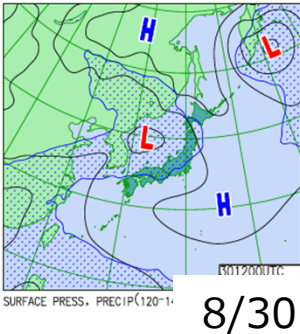
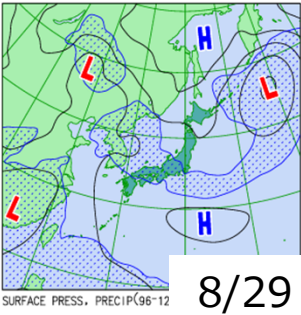
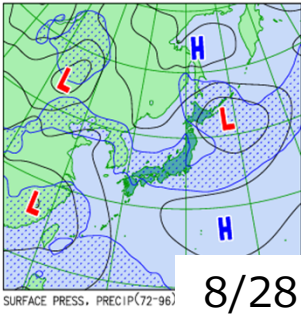
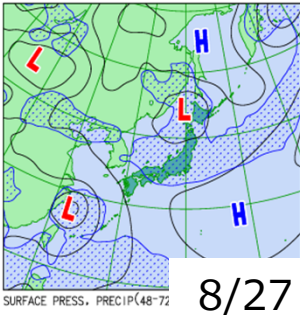
2025年 地域平均気温平年差



・九州北部地方における最近10年の9～11月の平均気温は、平年並か高い年が多く、2024年と2025年はかなりの高温だった。エルニーニョ現象が発生した2018年は低温だったが、2023年は高温だった。

週間天気予報（8/25 11時発表）

予想天気図



L : 低気圧 **H** : 高気圧
陰影部 : 24時間で5mm以上の予想降水域

週間天気予報

（福岡県）

福岡県の天気予報（7日先まで）								
2026年08月25日11時 福岡管区気象台 発表								
日付	今日 25日(火)	明日 26日(水)	明後日 27日(木)	28日(金)	29日(土)	30日(日)	31日(月)	01日(火)
福岡県	晴 	晴後曇 	曇時々晴 	曇一時雨 	曇 	曇 	曇 	曇
降水確率(%)	-/-/10/10	0/10/30/20	30	50	40	40	40	40
信頼度	-	-	-	C	B	B	B	B
福岡 気温 (°C)	最高 36	36	37 (33~38)	34 (32~36)	34 (32~36)	34 (32~36)	34 (32~36)	33 (31~36)
	最低 -	28	28 (26~29)	28 (26~30)	28 (26~30)	28 (26~29)	28 (26~29)	27 (25~28)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値								
降水量の7日間合計				最低気温		最高気温		
福岡 平年並 18 - 46mm				24.2°C		31.2°C		

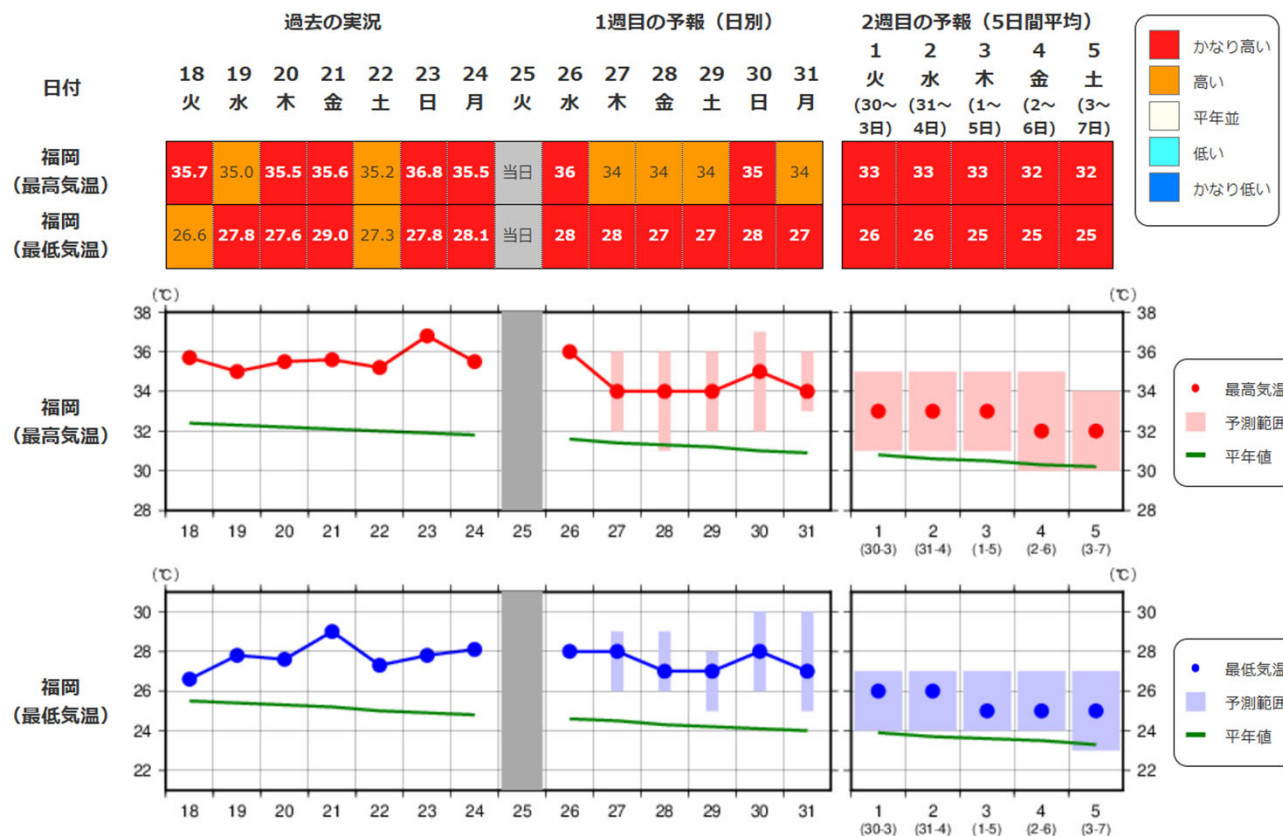
向こう1週間の見通し

曇りや雨の降る日が多いでしょう。気温が平年より高くなり、最高気温が35度以上の猛暑日となる所があるでしょう。熱中症など健康管理に注意してください。
福岡の降水量は平年並でしょう（平年並の範囲： 18 ～ 46 mm）。

2週間気温予報

2週間気温予報（福岡）

（8/25 11:00更新）



2週間気温予報（九州北部地方）



1か月予報（8/20発表）

毎週木曜日14時30分発表

《特に注意を要する事項》

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

予報のポイント

- ✓ 暖かい空気に覆われやすいため向こう1か月の気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ✓ 湿った空気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は平年並か少ない見込みです。

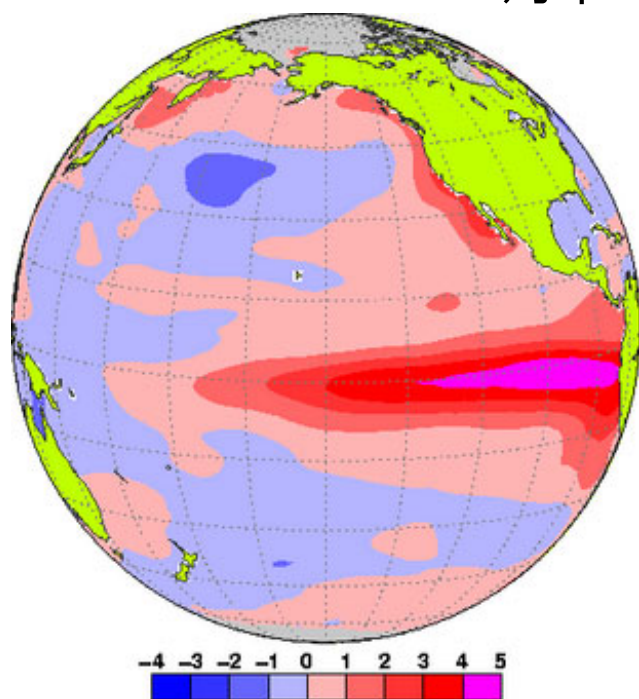
向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（向こう1か月）	降水量（向こう1か月）	日照時間（向こう1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並20 高70% 高い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み
数値は予想される出現確率（％）です	平均気温（1か月） 低い確率（％） 50 40 40 50 高い確率（％） 以上 以上 以上 以上	降水量（1か月） 少ない確率（％） 50 40 40 50 多い確率（％） 以上 以上 以上 以上	日照時間（1か月） 少ない確率（％） 50 40 40 50 多い確率（％） 以上 以上 以上 以上

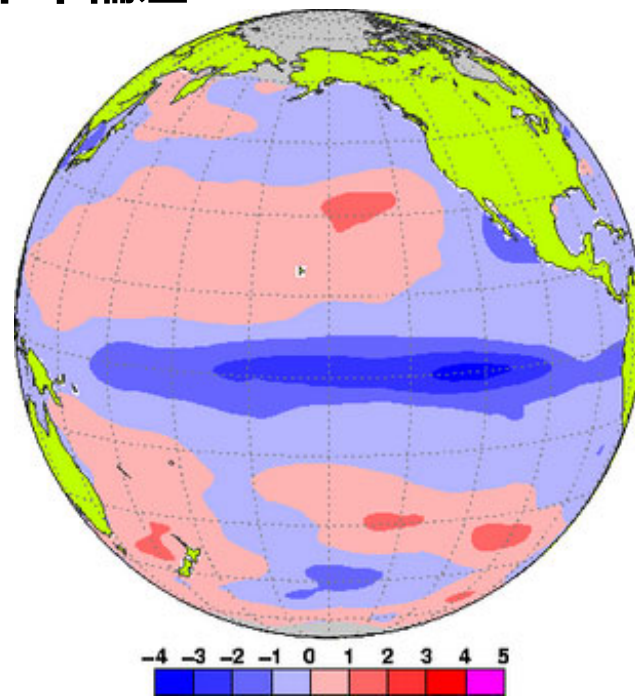
エルニーニョ現象・ラニーニャ現象①

エルニーニョ現象とは、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象です。逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象はラニーニャ現象と呼ばれ、それぞれ数年おきに発生します。エルニーニョ現象やラニーニャ現象は、日本を含め世界中の異常な天候の要因となり得ると考えられています。

月平均海面水温平年偏差



エルニーニョ現象発生時
(1997年11月)

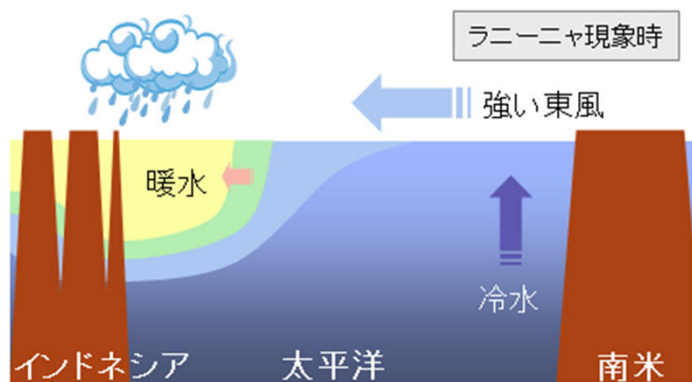
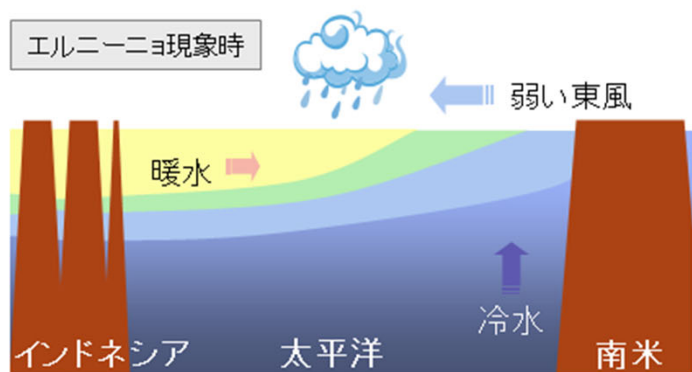
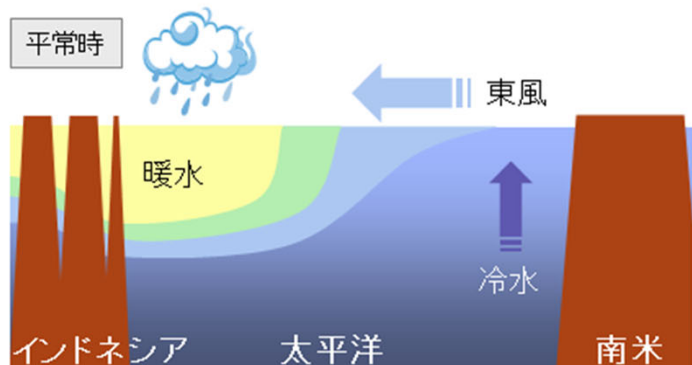


ラニーニャ現象発生時
(1988年12月)

気象庁ホームページ（エルニーニョ/ラニーニャ現象とは）

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/data/elnino/learning/faq/whatiselnino.html>

エルニーニョ現象・ラニーニャ現象②



平常時の状態

太平洋の熱帯域では、貿易風と呼ばれる東風が常に吹いているため、海面付近の暖かい海水が太平洋の西側に吹き寄せられています。西部のインドネシア近海では海面下数百メートルまでの表層に暖かい海水が蓄積し、東部の南米沖では、この東風と地球の自転の効果によって深いところから冷たい海水が海面近くに湧き上がっています。このため、海面水温は太平洋赤道域の西部で高く、東部で低くなっています。海面水温の高い太平洋西部では、海面からの蒸発が盛んで、大気中に大量の水蒸気が供給され、上空で積乱雲が盛んに発生します。

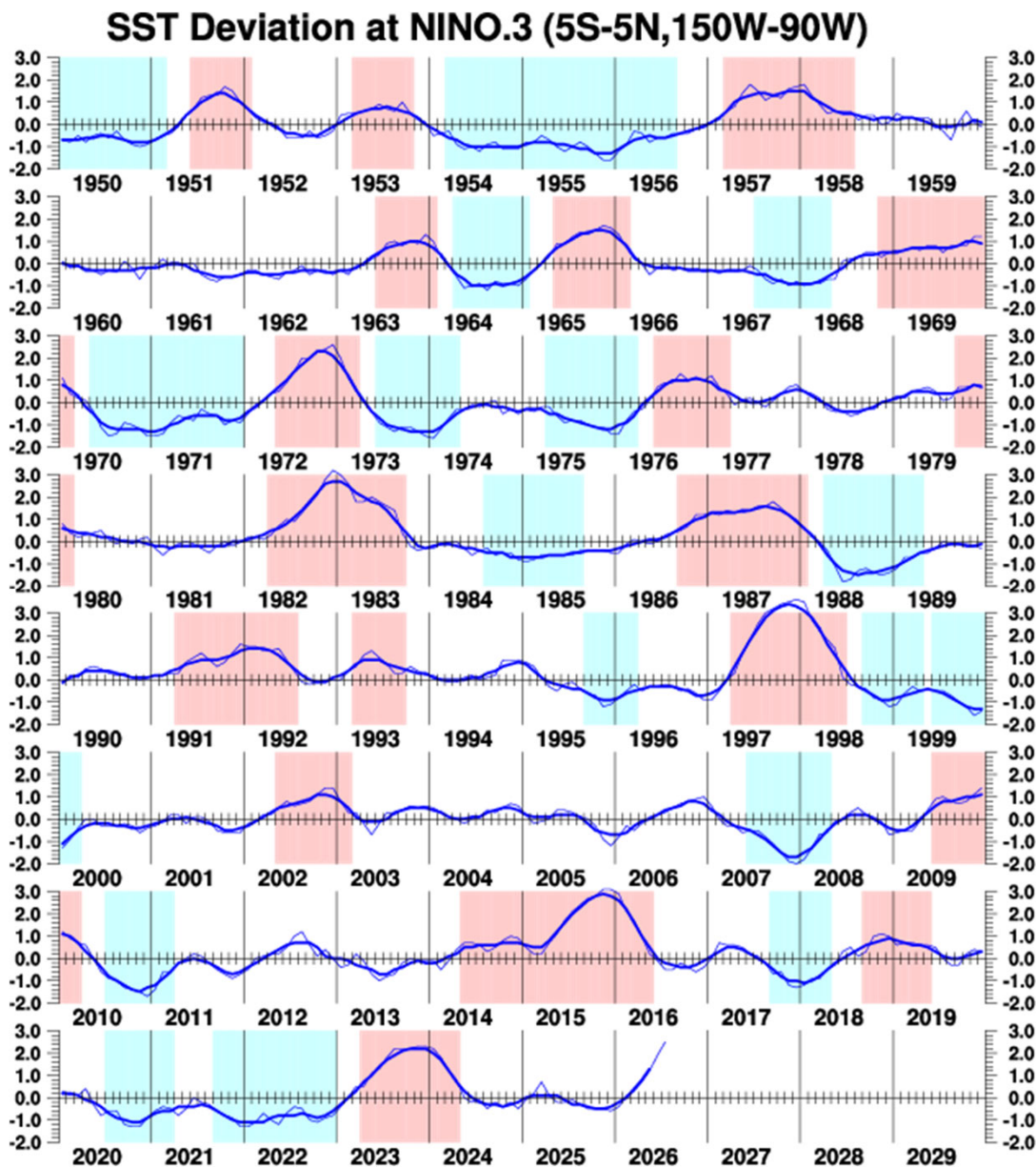
エルニーニョ現象時の状態

エルニーニョ現象が発生している時には、東風が平常時よりも弱くなり、西部に溜まっていた暖かい海水が東方へ広がるとともに、東部では冷たい水の湧き上がりが弱まっています。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも高くなっています。エルニーニョ現象発生時は、積乱雲が盛んに発生する海域が平常時より東へ移ります。

ラニーニャ現象時の状態

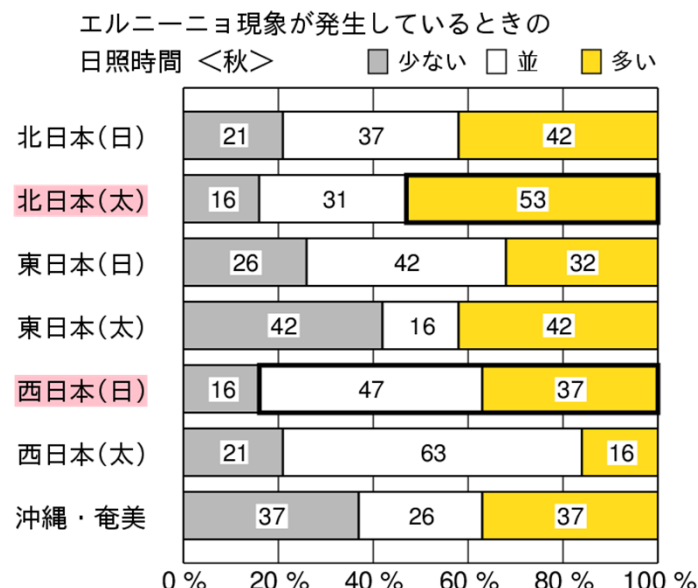
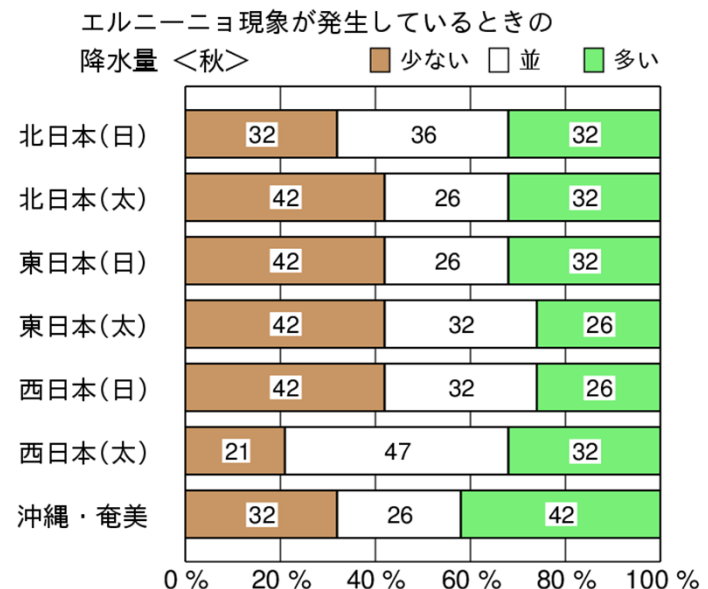
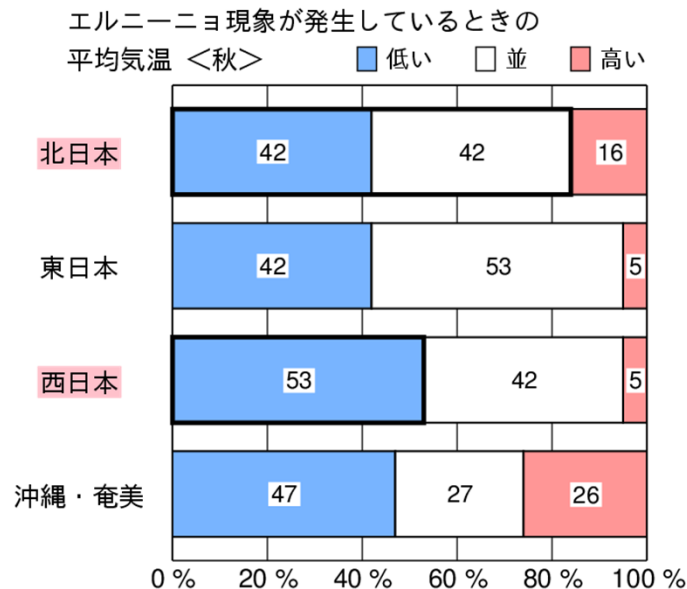
ラニーニャ現象が発生している時には、東風が平常時よりも強くなり、西部に暖かい海水がより厚く蓄積する一方、東部では冷たい水の湧き上がりは平常時より強くなります。このため、太平洋赤道域の中部から東部では、海面水温が平常時よりも低くなっています。ラニーニャ現象発生時は、インドネシア近海の海上では積乱雲がいつも盛んに発生します。

エルニーニョ現象・ラニーニャ現象の発生時期



エルニーニョ現象			ラニーニャ現象		
発生期間	季節数	差の最大値 (月平均)	発生期間	季節数	差の最小値 (月平均)
			1949年秋～1950/51年冬	6	-1.0
1951年夏～1951/52年冬	3	+1.7			
1953年春～1953年秋	3	+1.0	1954年春～1956年夏	10	-1.6
1957年春～1958年夏	6	+1.8			
1963年夏～1963/64年冬	3	+1.3	1964年春～1964/65年冬	4	-1.2
1965年春～1965/66年冬	4	+1.7	1967年夏～1968年春	4	-1.0
1968年秋～1969/70年冬	6	+1.2	1970年春～1971/72年冬	8	-1.5
1972年春～1973年春	5	+2.6	1973年夏～1974年春	4	-1.6
			1975年春～1976年春	5	-1.4
1976年夏～1977年春	4	+1.3			
1979年秋～1979/80年冬	2	+0.8			
1982年春～1983年秋	7	+3.2	1984年夏～1985年夏	5	-0.9
1986年秋～1987/88年冬	6	+1.8	1988年春～1989年春	5	-1.8
1991年春～1992年夏	6	+1.6			
1993年春～1993年秋	3	+1.3	1995年秋～1996年春	3	-1.2
1997年春～1998年夏	6	+3.6	1998年秋～1999年春	3	-1.2
			1999年夏～2000年春	4	-1.6
2002年春～2002/03年冬	4	+1.4	2007年夏～2008年春	4	-2.0
2009年夏～2010年春	4	+1.4	2010年夏～2011年春	4	-1.7
2014年春～2016年春	9	+3.1	2017年秋～2018年春	3	-1.3
2018年秋～2019年春	3	+1.1	2020年夏～2021年春	4	-1.3
			2021年秋～2022/23年冬	6	-1.3
2023年春～2024年春	5	+2.3			

9～11月のエルニーニョ現象発生時の日本の天候の特徴



- 3か月（9～11月）の統計的に有意な傾向
- ・平均気温：北日本で平年並か低い
西日本で低い
 - ・降水量：なし
 - ・日照時間：北日本太平洋側で多い
西日本日本海側で平年並か多い

大雨の発生頻度の変化

気象庁HP

大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化



大雨の年間発生頻度は増加しており、

- より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大い
- 1980年頃と比較して、おおむね2倍程度(※)に頻度が増加している
(※ 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨)

これらの変化には、地球温暖化が影響している可能性がある

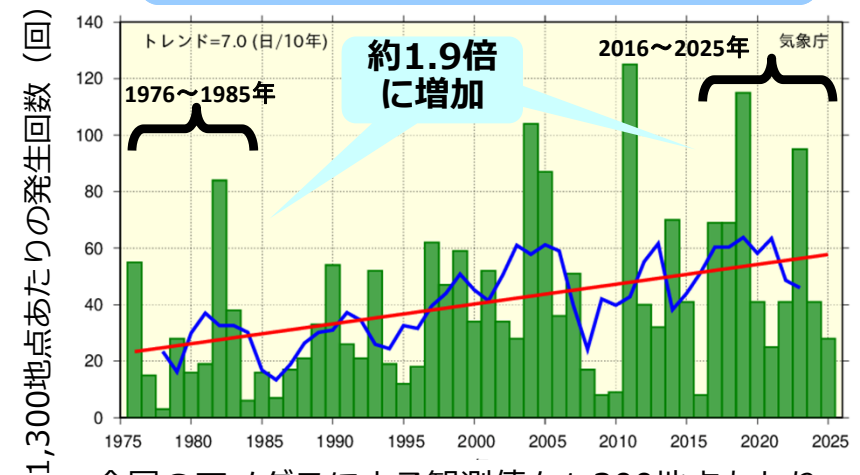
⇒大雨に対する備えの必要性を認識していただきたい

変化の倍率（2016-2025年平均 / 1976-1985年平均）

1時間降水量50mm以上	約1.5倍（約226回→約340回）
1時間降水量80mm以上	約1.8倍（約14回→約25回）
1時間降水量100mm以上	約2.0倍（約2.2回→約4.4回）
3時間降水量100mm以上	約1.6倍（約155回→約248回）
3時間降水量150mm以上	約1.8倍（約19回→約33回）
3時間降水量200mm以上	約2.1倍（約2.8回→約5.9回）
日降水量200mm以上	約1.5倍（約160日→約240日）
日降水量300mm以上	約1.9倍（約28日→約53日）
日降水量400mm以上	約2.1倍（約6.4日→約13日）

- ・変化の倍率は、最初の10年間（1976～1985年）と最近10年間（2016～2025年）の比。
- ・回数及び日数はアメダス1,300地点あたりの換算値。

日降水量300mm以上の大雨の年間日数（1976年～）



- ・全国のアメダスによる観測値を1,300地点あたりに換算した値
- ・棒グラフ（緑色）は各年の値、青線は5年移動平均値、赤い直線は長期変化傾向を示す。

季節予報とは？

気象庁HP
季節予報って何？



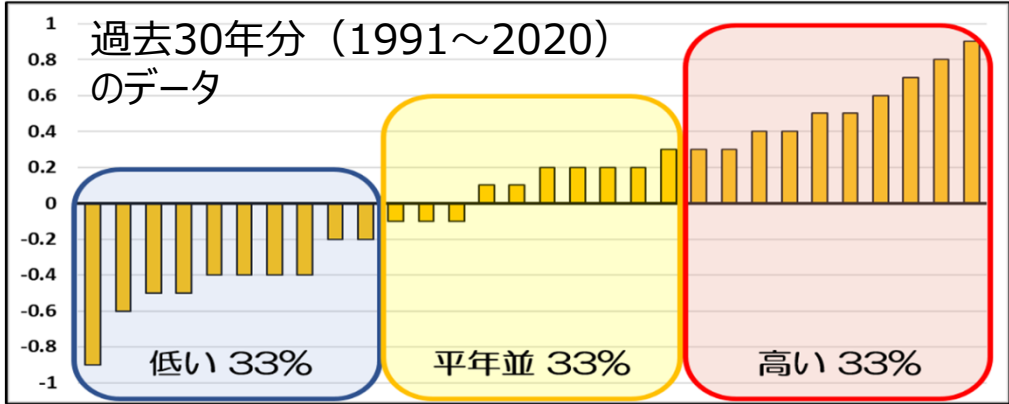
季節予報は、日々の天気ではなく、ある地域の大まかな天候（平年の気候と比べて、どのくらい偏った天候か）を予報します。

地域：日本全国を11地方に分類（右図）
予報する要素

- 例）1 か月間、3 か月間の平均気温
- 1 か月間、3 か月間の降水量
- 1 か月間、3 か月間の日照時間 など



予報は3つの階級
低い（少ない）・平年並・高い（多い）の
どの階級に入るかを予報します

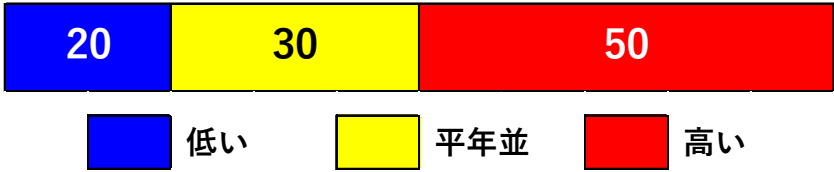


現在が平年値期間の30年と同じ気候だとした場合、
「高い」「平年並」「低い」という階級になる可能性は、それぞれ33%。

予報区



予報例 向こう3か月の気温



平年並か低くなる確率も50%

高くなる確率は
50%